

石井林響展

生誕135年

千葉に出づる風雲児

会期 **2018年11月23日(金・祝)→2019年1月14日(月・祝)**

開館時間 10:00-18:00(金・土曜日は20:00まで) ※ 入場受付は閉館の30分前まで

休館日 12月3日(月)、年末年始(12月29日~1月3日)

観覧料 一般 1200円(960円) 大学生 700円(560円) 小・中学生、高校生無料

☆おなまえ割引…姓が「石井」あるいは名前に「天」「風」「林」「響」がつく方は観覧料2割引(姓名のわかるものを受付でご提示ください)

※障がい者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

※()内は前売り、団体20名以上、市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(11月11日まで)、ローソンチケット(Lコード:31517)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて11月22日まで販売(11月23日以降は当日券販売)

主催 千葉市美術館

展覧会概要

石井林響(本名 毅三郎 1884-1930)という、明治大正の時代を駆け抜けた日本画家がいました。千葉県山武郡土気本郷町(現千葉市)に生まれ、東京で橋本雅邦に入門、はじめは「天風」の名で若くして頭角をあらわし、歴史画から色鮮やかな風景画や田園風俗画へと画風を大きく展開させながら、画壇への刺激や示唆を与え続けた熱血漢でした。「どこの展覧会でも光っていた」と言われる活躍をし、帝展の委員となるなど地位も築きますが、「林響」と号を変えた大正の半ばからは次第に「野に帰る心地」となり、大正15年、郷里に近い千葉の大網宮谷に画房「白閑亭」を築いて移住。新たな画境へ進み始めたところでした。ところが、45歳の若さで急逝しました。しかしその才気と気概は、画人たちや房総の人々にも大きな存在感を遺しています。

本展では新たな資料と視点を交えて画業の全容を回顧、文人画への傾倒などを通じて「野人林響」が追い求めた理想の世界を探り、今の時代にこそ見直してみたい、その魅力をあらためて広く紹介します。



石井林響《少女の姿となりて》明治39年 東京都現代美術館蔵

みどころ

☆「東に林響あり」と称された石井林響の決定的展覧会!

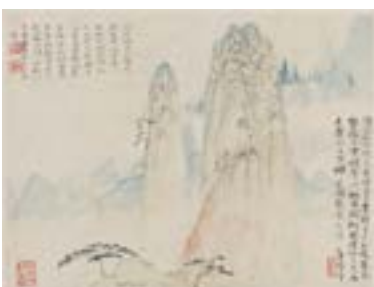
今でこそ知る人ぞ知る石井林響ですが、明治末から大正期にかけて画壇を賑わせた日本画家でした。16歳で上京後は下村観山推薦のもと、橋本雅邦に師事し、その才筆は「西に閑雪(橋本閑雪)あり、東に林響あり」と称されるほど。本展では28年ぶりに、他作家の作品約10点を含む約130点で、知られざる石井林響の世界を回顧します。

☆ 時代によって変遷する画風を楽しむ

初期の林響は当時流行していた「歴史画」を緻密に、そして物語性豊かに描き称賛を浴びました。そこから、横山大観や今村紫紅の影響を感じさせる作品が登場、田園風景や牧歌的なテーマを多く描き、大正時代には鮮やかな色を用いてカラリストとも呼ばれました。その後徐々に画壇から距離をおくようになり、南画や文人画の世界へ没頭。素朴ながら味わい深い、軽妙な作品を生み出しました。様々な画風を変えた林響ですが、「理想の田園」としての房総への郷土愛は生涯揺らぐことがありませんでした。

☆ 目利き林響が収集した重要文化財や優品も紹介

古画を愛し、同時代の画家たちの中でも随一の目利きで知られた林響。大正期における南画、文人画の再発見の立役者となりました。自ら古画を収集し、その中でも中国・清時代の画家・石濤の《黄山八勝画冊》は林響が大正末に苦労して手に入れ、一時期所持していたもの。後に林響の手から離れ、住友家が購入し現在では重要文化財となった逸品を、本展では特別に展示します。



重要文化財の特別出品!

珠玉の名冊である、石濤《黄山八勝画冊》に心揺さぶられた画家たちの動きと、林響による新しい価値観の提唱をたどりませう。

石濤《黄山八勝画冊》中国・清時代 泉屋博古館蔵(重要文化財)
(会期中展示場面の真替えを行います)

記者レクチャー

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を行います。展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

11月22日(木)／14:00より(1時間程度)／8階展示室にて

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

また、展覧会の開催に伴いオープニングレセプションを行います。ぜひご参加ください。

11月22日(木)／16:00より／11階講堂にて

展覧会関連イベント

■講演会

「石井林響と房総の支援者たち」

講師：堀内瑞子(城西国際大学水田美術館学芸員)

12月2日(日) 14:00~(13:30 開場予定) / 11階講堂にて

先着150名 / 聴講無料

■市民美術講座

「石井林響に惚れ直す—林響の愛したものとともに—」

講師：松尾知子(当館上席学芸員)

12月16日(日) 14:00~(13:30 開場予定) / 11階講堂にて

先着150名 / 聴講無料

■新春の獅子舞

1月5日(土) 10:00の開場時には、8階会場入口で獅子舞がお迎えします。

出演：登渡神社登戸神楽囃子連

■新春千葉のうまいもん！市

1月12日(土) 11:00~15:00 / 1階さや堂ホールにて

好評であった千葉の「うまいもん」を集めたイベントの新春バージョン。林響の生きた時代(昭和2年)に竣工したモダン銀行建築の空間で、お食事やお買い物をお楽しみください。

■ワークショップ

素材であそぶvol.2「箔」(事前申込制)

金箔・銀箔・銅箔。日本でも古くから使われ、画面を華やかに彩る「箔」素材。その基本的な特徴や技法を体験しながら、「箔」の魅力に触れていきます。

講師：坪田純哉(日本画家)

12月15日(土) 13:30~16:30 / 11階講堂にて

定員15名(対象：中学生以上) / 参加費2000円(材料代)

[申込方法]

往復はがきまたは当館ホームページからお申し込みください。往復はがきの場合は、郵便番号・住所・電話番号(当日連絡可能なもの)・参加人数(2名まで)・氏名と年齢(参加者全員分)を明記の上、〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館イベント係まで。
※申込締切12月5日(水)、必着応募多数の場合は抽選

■ギャラリートーク

担当学芸員による11月28日(水) 14:00~

ボランティアスタッフによる会期中の毎週水曜日(11月28日を除く)

※水曜日以外の平日の14:00などにも開催することがあります。混雑時には中止する場合があります。

◆イベントの変更、中止につきましてはホームページをご確認ください。

同時開催

所蔵作品展「林響の周辺」

林響も親しみ学んだ江戸時代絵画や、同時代の周辺の絵画、千葉ゆかりの作品などを展示します。

※「生誕135年 石井林響展」をご観覧の方は無料



橋本閑雪《水城暮雨図》大正8年

次回展予告

「ブラティスラヴァ世界絵本原画展—BIB で出会う絵本のいま—」

2019年1月20日(日)~3月3日(日)

荒井真紀《たんぽぽ》BIB2017金のりんご賞



「生誕135年 石井林響展－千葉に出づる風雲児」 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1. 石井林響《童女の姿となりて》
明治39年 東京都現代美術館蔵



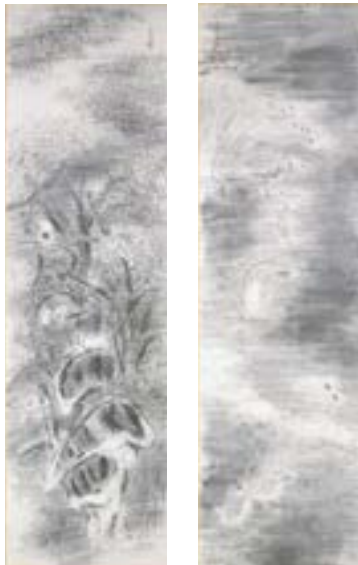
2. 石井林響《王者の瑞》大正7年 千葉県美術館蔵



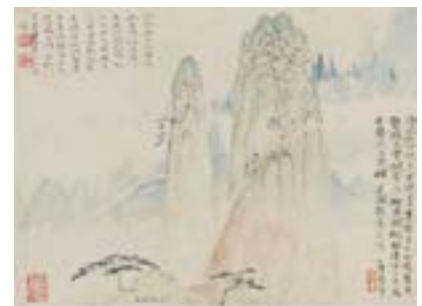
3. 石井林響《木華開耶姫》明治19年
千葉県立美術館蔵



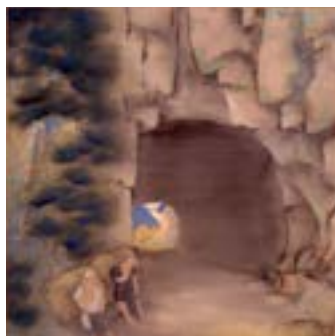
4. 石井林響《兎月図》大正9年
浜松市秋野不矩美術館蔵



5. 石井林響《野趣二題 枝間の歌・池中の舞》
昭和2年 国立近代美術館蔵



6. 石濤《黄山八勝画冊》中国・清時代 泉屋博古館蔵
(重要文化財)
(会期中展示場面の頁替えを行います)



7. 石井林響《総南の旅から 仁右衛門島・隧道口・砂丘の夕》大正10年 山種美術館(展示期間:11月23日~12月20日)

「生誕135年 石井林響展 - 千葉に出づる風雲児」

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 磯野 行

FAX：043-221-2316

E-mail：isono@ccma-net.jp

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>（おおよそで結構です 例：5cm 四方、など）</small>

■ 画像データ申込（ご希望のデータの番号に○をつけてください。）

1. 石井林響《童女の姿となりて》明治39年 東京都現代美術館蔵
2. 石井林響《王者の瑞》大正7年 千葉市美術館蔵
3. 石井林響《木華開耶姫》明治19年 千葉県立美術館蔵
4. 石井林響《兔月図》大正9年 浜松市秋野不矩美術館蔵
5. 石井林響《野趣二題 枝間の歌・池中の舞》
6. 石濤《黄山八勝画冊》中国・清時代 泉屋博古館蔵（重要文化財）
7. 石井林響《総南の旅から 仁右衛門島・隧道口・砂丘の夕》大正10年 山種美術館
（展示期間：11月23日～12月20日）

■ プレゼント用招待券申込

（ご希望の場合はチェックをつけてください）

5 組 10 名様分 希望します。

（それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。）

チケット送付先

ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

広報担当：磯野 愛

Tel. 043-221-2311（代表） / 043-221-2313（直通）

Fax. 043-221-2316

E-mail. isono@ccma-net.jp

HP. <http://www.ccma-net.jp/>